

令和5年度 東京都立府中東高等学校 学校経営計画

東京都立府中東高等学校長  
小林 和人

I 目指す学校

○教育目標

- (1)「創造する力」・・・主体的に考え、行動する生徒を育成する。即ち、社会が変化しても周囲や環境のせいにせず、自分の頭で考え、行動し、改善していける力を身に付けさせる。
- (2)「協働する力」・・・地域社会や、世界の様々な文化や価値観を理解し、尊重しながら協働できる力のある人材を育成する。
- (3)「人間性」・・・自他を尊重する精神と、生命を大切にし、自然を愛する豊かな心を培う。

○スクール・ミッション

「文武不岐」を目指し、自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる力、及び豊かな人間性と発想力・創造力・実行力、社会の変化に左右されない人間力を身に付け、社会に貢献するために積極的に行動する人物を育成します。

○スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 進路実現に向けて高い志と、初志貫徹の強い信念を育む。
- ② 基本的な生活習慣と、家庭学習習慣を身に付けさせる。  
規則正しい生活と、家庭学習など自主的な学習を習慣化させることで、自身の健康管理能力や基礎学力の確実な蓄積と定着を図る。
- ③ 多くの経験や他者との関わりをとおして、自信と自己有用感を育む。  
各行事や、総合的な探究の時間等で、様々な役割を担当したり、実体験を経験させて、達成感や意欲を育む。

(2) カリキュラム・ポリシー

① 基本方針

アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的な学びをとおして大学入学共通テストにも対応できる学力の養成を図るとともに、漢字検定の全員受験や、英語検定に積極的にチャレンジさせるなど、基礎学力の定着にも取り組む。生徒の資質や能力に応じた多様な進路希望を実現できるよう教育課程を編成し、実施する。

② 進路実現に向けた計画的な学習

- 1 学年で基礎学力を定着させるため基礎・基本を重視し、主体的な学習態度を身に付けさせる。
- 2 学年で生徒一人一人の志や個性、興味・関心を丁寧に把握し、深めたい、広げたい学びについて導いていく。
- 3 学年で進路実現を図る学習指導を重視し、進路に応じた選択科目に取り組むとともに、初志貫徹に向けた支援を行う。

③ 分かる授業に向けた工夫、少人数・習熟度別授業の実施

「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、ICT機器を活用したり、家庭科目の少人数授業による調理・被服実習を実施し、科目「数学Ⅱ」及び科目「論理・表現Ⅰ・Ⅱ」では、生徒の理解度に応じたグループに分け、生徒とのコミュニケーションを重視したきめの細かい習熟度別授業を行う。

④ 「探究活動」

生徒が選ぶテーマとした地域や世界、様々な分野の課題に正対し、生涯にわたって探究活動を継

続できるよう、高校3年間をとおして系統立てた科目「総合的な探究の時間」を行うとともに、各教科・科目で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した探究活動を推進する。

### (3) アドミッション・ポリシー

- ① 中学校で習得すべき基礎学力を基に、高校生活において何事にも主体的に取り組み、大学進学をはじめ自身の将来の目標について真剣に考え、目標の実現に向けて意欲的に活動する生徒
- ② 希望する進路の実現や、教科に対する強い興味や関心をもつなど、明確な目標をもって学習活動に取り組む生徒
- ③ 確かな学力を蓄積していく上で基盤となる、基本的生活習慣を身に付けた生徒
- ④ 学校行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動に主体的に参加し、活動をとおして協調性を発揮し、他者と協力して課題を解決していく生徒
- ⑤ 校則の意義を理解し、定められた規則やルールを守り、己のわがままな心に打ち克つとともに、人への思いやりを大切にして集団生活を営める生徒

教育目標やスクール・ミッション達成のために、スクール・ポリシー、グランドデザインに基づき、学習活動や特別活動、そしてキャリア教育等をバランスよく効果的に行う。その結果、生徒の「学力」「体力」「気力」の確実な向上が期待でき、進路希望の実現を図ることのできる学校を目指す。さらには、保護者・地域から信頼され、愛される学校となることを目指す。

## II 中期的目標と方策

### 1 学習指導の充実

- ① 全ての学習のベースとなる言語能力の育成をはじめとして、生徒の主体的な学習を促す教材や指導方法を工夫し、生徒の基礎学力の定着と大学入学共通テストにも対応できる学力の養成に取り組む。
- ② デジタル技術を活用した授業実践を行い、生徒一人一人の学びを充実させる。
- ③ 自学自習や読書活動の推進により、確かな学力、豊かな教養、幅広い視野を育む。
- ④ 生徒の学力分析や学校評価、授業評価の結果等から課題を抽出し、組織的なOJTや校内研修等をとおして授業力の向上を図る。
- ⑤ 組織的・系統的な科目「総合的な探究の時間」の実施により、生涯にわたって探究活動を継続できる生徒の育成を図る。

### 2 生活指導・教育相談の充実

- ① 府中東高校の生徒としての帰属意識を醸成し、挨拶の習慣や規範意識の育成と基本的生活習慣の確立を図る。
- ② 安全教育、防災教育、薬物乱用防止教育等をとおして、自他の生命を尊ぶ態度、安全を確保する能力を育成する。
- ③ スクールカウンセラーと連携した教育相談（特別支援教育）推進委員会の充実と、生徒へのきめ細かな支援や生徒の心に寄り添う支援を行う。
- ④ 都立府中けやきの森学園や関係機関と連携して特別支援教育を推進する。

### 3 進路指導の充実

- ① 3年間を見通した系統的な進路指導計画により、生徒・保護者対象の進路説明会や進路面談による進路指導を充実させ、家庭と一体となった進路指導を進める。
- ② 自分の可能性を信じ、諦めず高い志を維持させる等生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を推進し、生徒の進路希望実現を図る。

### 4 特別活動、部活動の充実

- ① 学校行事をはじめ、ホームルーム活動、委員会活動、生徒会活動、部活動等の活性化を推進し、生徒の主体性、向上心、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。
- ② 文化・スポーツ等特別推薦を実施することや、部活動充実校を表明することにより文武不岐を推進し、人間形成を図る。
- ③ 体育的行事や部活動を計画的に実施し、体力や健康に関する意識啓発を図り、一層の体力の向上を目指す。また、心身の健康の保持増進を図る。

## 5 関係諸機関との連携・広報活動の充実

- ① 地域に根ざした学校づくりを推進するため、近隣地域や教育機関との連携・交流、学校開放、教育活動に係る情報発信等を行う。
- ② 組織的な広報活動の充実と中学生とその保護者の視点やニーズを加味した募集対策の工夫・充実を図る。

## 6 学校運営の改善と充実

- ① 学校運営連絡協議会における学校評価等を活用した学校改善と特色ある教育活動の実践を図る。
- ② 組織的OJTの推進による人材育成と各分掌、各学年、各委員会等の活性化を図る。
- ③ 経営企画室との連携推進と自律経営予算の有効活用を推進する。
- ④ 「学校における働き方改革推進プラン」等に基づくライフ・ワーク・バランスを推進する。

## Ⅲ 今年度の取組目標と具体的方策

### ○ 教育活動の目標と方策

中期的目標達成に向けて、学習到達度や進路結果、部活動の成果などに対して高い目標を掲げ、教職員が一丸となって生徒主体の教育活動を展開する。

## 1 学校経営・組織体制

### (1) 目標

教職員の意識改革を図り「チーム府中東」として、分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を強化し、学校経営計画の具現化のため、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

### (2) 方策

- ① 学校経営計画に基づき、目標達成に向けた分掌・学年運営、教科指導を行う。また、PDCAのマネジメントサイクルを機能させ、改善に生かす。
- ② 各種委員会、校内研修等を機能させ、教職員が協働して教育課題の解決に努める。
- ③ ICT、統合型校務支援システムの利活用や部活動指導員の導入、会議時間の短縮等により業務の効率化を徹底する。また、各自の働き方に合わせて、教職員が少なくとも月1日は定時退庁することとし、教職員の在校時間縮減に努める。
- ④ 教職員一人一人がその職責を十分に自覚するとともに倫理観や規範意識等をより一層高め、「教職員の服務に関するガイドライン」に基づき、服務の厳正に努める。

## 2 学習指導

### (1) 目標

大学入学共通テストを見据え、生徒の進路希望実現を図るため、基礎学力の定着と学力向上を図る授業、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、Society5.0を生きる力を育む授業を計画的に推進する。また、保健体育の授業をとおして、体力の向上、健康の保持増進に努める。

### (2) 方策

- ① 授業の目標設定を明確にし、教科会・教科主任会を充実することによる教科指導の向上を図る。
- ② 授業規律の定着と毎時間授業の「ねらい」を明確にすることにより、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、大学入学共通テストにも対応できる学力の養成に取り組み、知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題解決力、創造力、探究力を育成する授業を推進する。
- ③ 予習が前提となる授業展開と課題の提供や放課後や空き時間の自学自習時間の充実、自習室・学習室の活用促進等をとおして、生徒の自学自習を習慣化する取組を推進する。
- ④ TOKYO スマート・スクール・プロジェクトに基づき、ICTサポートツールやオンラインを活用した教育活動の推進をとおして、また、アクティブ・ラーニング型授業の推進等指導方法の工夫に努めることにより、生徒の主体的な学びを支援し自学自習の力を育む。
- ⑤ 教育職員のデジタル技術の活用力を高め、全教育職員が週当たり持ち時数（座学）平均65%以上の授業で、生徒一人一人が端末を活用する学習を展開する。
- ⑥ 長期休業中の講習や補習の実施をとおして、進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。

- ⑦ 教員相互の授業参観を年間3回以上実施し、また、授業研究等のOJTをとおして、学校全体の授業力向上に努める。
- ⑧ 総合探究検討委員会を中心として、科目「総合的な探究の時間」の組織的・系統的な取組を推進する。
- ⑨ 読書活動を推進し、学校図書館の有効活用を図る。また、ビブリオバトル（書評合戦）への参加をとおして、表現力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑩ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、体力の維持向上、心身の健康の保持増進を図るため、スポーツの多様な楽しみ方を学ぶ体育授業を展開する。
- ⑪ 成年年齢引下げに伴い、生徒自身が在学中から社会との関わりをもち、社会の一員であることの自覚を深めるため、「私たちが拓く日本の未来」「社会への扉」等の活用をとおして、主権者教育の充実に努める。
- ⑫ 漢字検定の生徒全員受験を実施する。また、学年・英語科・進路指導部が連携して英語検定の各級の合格を目指した学習指導を推進する。

### 3 生活指導

#### (1) 目標

挨拶の励行、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の醸成や思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。このため、生活指導部を中心とした組織的な指導を行う。また、道徳教育の全体計画、学校安全計画の全体計画に基づき、全教育活動をとおして、道徳教育、安全教育の充実に取り組む。

#### (2) 方策

- ① 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、自ら進んで挨拶のできる生徒の育成、時間厳守に向けた指導、身だしなみ指導を組織的に行う。
- ② SNS東京ルールに準拠した「府中東高校SNSルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年3回実施し、いじめの早期発見及び未然防止に組織的に取り組む。
- ④ 人権尊重の精神を基盤に、全ての生徒が安全で安心して通える学校を維持する。いじめ・体罰を許さない校内の雰囲気や教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導を行う。
- ⑤ 教育相談（特別支援教育）推進委員会・学校いじめ対策委員会の計画的な実施及びスクールカウンセラー等による面接をとおして生徒の悩みの解決に努めるとともに、生命尊重に資する教育やSOSの出し方に関する教育を推進するなどして、生徒の健全育成に向け、学校の相談機能の充実に努める。
- ⑥ 道徳教育の全体計画に基づき、全教育活動をとおして道徳的価値を自覚させ、他者を思いやる心や規範意識の育成を図る。
- ⑦ 全てのHRで「清掃点検カード」を運用し、校内美化に勤しむ態度と習慣を身に付けさせる。
- ⑧ 特別支援教育の視点に立って、特別の支援が必要なケースには、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等によるケース会議を効果的に機能させ、支援体制の充実に努める。
- ⑨ 学校安全計画の全体計画に基づき、「地震と安全」「防災ノート」「東京マイ・タイムライン」等の活用をとおして、避難訓練、安全講話、地域防災訓練等を計画的に実施し、危険を予測し回避する力や、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。地域防災訓練では、自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させるため、地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。

### 4 進路指導

#### (1) 目標

組織的・計画的なキャリア教育をとおして生徒の進路意識の向上と進路希望の実現を図る。「自らを高める環境」を目指し、諦めず高い志を維持させるように、家庭と連携して継続的に指導する。

#### (2) 方策

- ① 進路指導に係る取組のより一層の充実に努め、進路指導部・学年・教科が一体となった進路指導を計画的に行う。
- ② 高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造する力を育むため、キャリア教育を組織的・計画的に行う。また、多様な進路希望実現に向けたきめ細かな指導を行う。

- ③ 長期休業中の講習・補習の計画的実施、自習室・学習室の利用促進等をとおして、生徒一人一人の高い進路希望を創出していく。
- ④ 模擬試験の分析結果を各学年・各教科で共有し進路指導と授業改善に役立てる。
- ⑤ ホームルーム担任による個人面談・三者面談等、面談・相談機能の充実を図り、生徒の進路意識の啓発に努める。また、生徒・保護者への進路情報の提供をとおして、学校、生徒、家庭が一体となった進路指導を行う。

## 5 特別活動・部活動

### (1) 目標

部活動や種々の学校行事をとおして、協働し、互いに高め合う姿勢や態度を育成するとともに、生徒一人一人が自分の居場所がある、自分が輝く場所がある学校を創る。また、生徒の体力の維持向上、健康の保持増進に計画的に取り組む。

### (2) 方策

- ① 学校行事では互いに高め合う集団づくりを意識し、帰属意識や参加する喜びが実感できるようにする。
- ② ホームルーム活動では望ましい人間関係を形成し、帰属意識や連帯感を育む。
- ③ 部活動では部員同士の連帯感を深め、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育む。また、文武不岐を指導し、学問と部活動の相乗効果で人間形成を図る。
- ④ 「理数研究校」(生物部)、「Sport-Science Promotion Club 指定校」(ボクシング部)の活動実績・成果を学校全体で共有し、部活動全体の活性化を図るとともに、他の生徒の励みとする。
- ⑤ 生徒会活動では、よりよい学校生活づくりに参画し、協力する姿勢や態度を育む。

## 6 募集・広報活動

### (1) 目標

入学したい学校を目指すため、府中東高校の教育実践を広く都民、中学生に発信し、本校の教育活動に対する理解や信頼を得る。

### (2) 方策

- ① ホームページの更新頻度を高め、学校の特色を積極的に発信し、本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び中学生に伝える。
- ② 本校の特色や教育活動の様子を学校訪問者へ伝えるため、授業や部活動等の成果展示を校内で行う。
- ③ 中学生とその保護者の視点やニーズを加味した募集対策の工夫・充実を図り、全教職員の連携・協力のもとに授業公開、学校説明会を計画的に実施し、入学したい学校、受検したい学校とする。

## IV 数値目標

### ① 組織的に進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

・大学入学共通テスト出願者	130名以上	(昨年度 124名)
・難関私立大学又は国公立大学合格者	1名以上	(昨年度 0名)
・GMARCH合格者	15名以上	(昨年度 12名)
・日東駒専合格者	30名以上	(昨年度 27名)
・大東亜帝国合格者	60名以上	(昨年度 53名)
・4年制大学への進学率	60%以上	(昨年度 58%)
・進路未決定率	8%未満(進学準備を含む)	(昨年度 10%)
・就職希望者決定率	100%	(昨年度 100%)

### ② 学習指導の充実を図る。

・長期休業中の補習・講習	60講座以上	(昨年度 49講座)
・図書館利用者数・貸出冊数	昨年比10%増以上	(昨年度 年間利用者数 2,130名 貸出冊数 2,353冊)

- ③ 基本的な生活習慣の定着を図ると共に、規範意識を育む。
- ・遅刻 年間延べ人数 5,000 以下 (昨年度 9,377 回)
  - ・特別指導件数 5 件以下 (昨年度 8 件)
  - ・いじめ、体罰 0 件 (昨年度 0 件)
- ④ 部活動充実校として部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。
- ※部活動充実校 8 年目
- ・部活動で関東大会レベル出場部数 3 部以上 (昨年度 2 部)
  - ・部活動で全国大会出場部数 1 部以上 (昨年度 1 部)
  - ・部活動加入率 70% 以上 (昨年度 60.6%)
- ⑤ 本校の教育を広く紹介し、「志」の高い生徒の募集を推進する。
- ・推薦入試 3.5 倍以上 (昨年度 2.97 倍)
  - ・入学者選抜倍率 (前期入試) 1.5 倍以上 (昨年度 1.45 倍)
  - ・HP 年間アクセス 60 万回以上 (昨年度 54 万回)
  - ・学校説明会来場者数 3,500 名以上 (昨年度 3,191 名)
- ⑥ 組織的な学校運営を推進し、生徒や保護者・地域から満足のいく学校をつくる。
- ・生徒学校満足度 90% 以上 (昨年度 90%)
  - ・保護者・地域の学校満足度 90% 以上 (昨年度 87%)